



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2015.2

No.370

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



地名の鳥

～北海道の巻～

石光 章(所沢市)

鳩ヶ谷、鶴ヶ島、鴻巣…いずれも皆さんよくご存じの埼玉県の地名です。共通点は地名に鳥が含まれていること。県外にも三鷹(東京)、烏丸(京都)、中百舌鳥(大阪)、尾鷲(三重)等、鳥の付く地名は多数あります。全国各地に地名となつて棲みついた鳥を探してみました。

◆ 先ずは北海道

道東屈指の探鳥地・釧路湿原に、鶴居村があります。一帯が天然記念物タンチョウの棲息繁殖地であることから、昭和12年に鶴居村と命名されました。一時は絶滅が伝えられたタンチョウを復活させた多くの人達の努力の染着いた土地、特に個人で長年給餌活動を続けられた故・伊藤良孝氏が築いたサンクチュアリ(現在は日本野鳥の会が維持・管理)に象徴されるタンチョウのパラダイスにふさわしい地名です。丹頂村としないで鶴居村としたところが奥床しい!

隣接する釧路市にも鶴丘(ツルオカ)、鶴ヶ岱(ツルガダイ)の地名があります。いずれもタンチョウの飛来地にちなんだ命名だそうです。埼玉の鶴ヶ島もそうですが、鶴の付く地名は全国に多数あります。かつて鶴は何処にでも当たり前居たということでしょう。

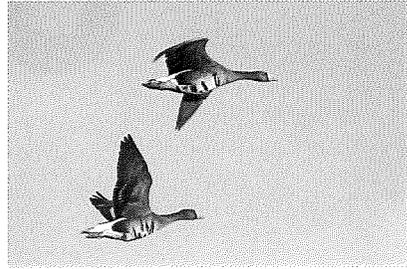


タンチョウ

◆ 鶴の次は雁(カリ)、ガンです

釧路市の隣の釧路町(別の自治体)に雁来(カリキ)という地名があります。宅地造成の際に付けられた比較的新しい地名ですが、もとは湿原でガンが連なって飛ぶ光景が見られたことから、この地名になったようです。

札幌の北東に位置する月形町に雁里(カリサト)があります。石狩川流域の土地で、昭和18年水路切替工事のため沼が消滅、その沼に



マガン

雁が来て棲息していたことにちなんで雁里とされたそうです。「月に雁」といえば、切手にもなった歌川広重の浮世絵が有名。広重とは無縁でしょうが「月形町雁里」、粋な響きの地名です。

月形町の南、江別市に对雁(ツイシカリ)という洒落た地名があります。ここもガンからと思いきや、由来はアイヌ語でした。アイヌ語で「ト・エ・シカリ」(沼が・そこで・回るの意)と呼ばれていた地名に漢字を当て对雁となったとの説があります。

アイヌ語由来の地名は北海道、東北地方には随所に見られます。札幌も「乾いた大きい」という意味のアイヌ語「サツ・ポロ」が由来とされます。

鴛泊(オシドマリ)が利尻富士町(アイヌ語のリー・シリ=高い島)にあります。これも元はアイヌ語。「オスツ・トマリ」は「根元・入り江」の意味で、確かに鴛泊はペシ岬の付け根にあります。鴛泊の表記は明治時代に入って付けられたそうですが、誰が何故鴛の字を当てたのかは定かではありません。

日高山脈の裾野の新ひだか町には鳧舞(ケリマイ、現在は三石鳧舞)があります。これもアイヌ語由来。ケレ(鮭の皮で作った靴)とオマップ(食った)が語源とされ、昔戦に敗れた戦士達がこの地で靴を食ったとの言い伝えから来た地名だそうです。何とも殺伐とした由

来に鳧が舞うと優雅に名付けたセンスは感嘆もの。北海道では稀少種のケリを当てた発案者はかなりの鳥好きだったに違いありません！

鴛、鳧と魅力的な鳥の名を選んだ二例にひけをとらない地名があります。紋別市の鴻之舞(コウノマイ)です。この地は大正4年金鉦山が発見されて拓けました。それまではアイヌ語でクオノマイ(弓を置く所)と呼ばれていましたが、鉦山長が一带の景観を「その雄大さはまさに鳥の王たる鴻が舞うが如し。よって山名を鴻之舞とする」と命名したのだそうです。鴻はおおとりを意味する字で、ヒシクイやハクチョウのこととされています。スケール観のあるネーミングが見事です。鉦山も盛時は東洋一の産金量を誇りましたが、鉦源が枯渇して昭和48年に閉山、無住地となって今は跡碑と慰霊碑だけが残されています。

◆ 北海道といえばオオワシ、オジロワシ

各地に鷲の地名があります。

イカ飯で有名な森町に鷲ノ木。文字通り鷲の止まる樹があることから命名されましたが、以前は鷲の巣がある桂の大樹があったので鷲の巣と呼ばれ、のち巣が無くなり大樹のみになったので鷲ノ木と改称したという説があります。これを裏付けるのでしょうか、JR函館本線に「鷲ノ巣」駅が現存しています。この付近は今でもオオワシ、オジロワシの多い所で、中でも隣接の八雲町を流れる遊楽部川(ユウラップガワ)沿岸は出現率の高い定番のポイントです。

温泉で有名な登別市にある鷲別(ワシベツ)の由来は微妙です。アイヌ語のハシユベツ(小柴の川)からとの説と鷲のいる川(ベツ)にち



オオワシ

なむ説と諸々あり、判断出来ません。

松山千春の出身地・足寄町の鷲府(ワシップ)はアイヌ語由来。「いつも歩いて川を渡る所」を意味する「オ・ワ・ウシ・イ」から転じてワシップ→鷲府となったとされています。

◆ 意外な鳥・鶇が地名に！

札幌と旭川の中ほどの上砂川町に鶇(ウズラ)の地名があります。遡ること明治32年、福井県から開拓に入った山内甚之助なる人物が、郷里の鶇村にちなんで鶇の沢(鶇農場)と称したのがもとです。その後正式に鶇となり今に至りますが、ルーツ・福井県の鶇村は昭和30年合併により消滅しており、大元の地名の由来は判りませんでした。

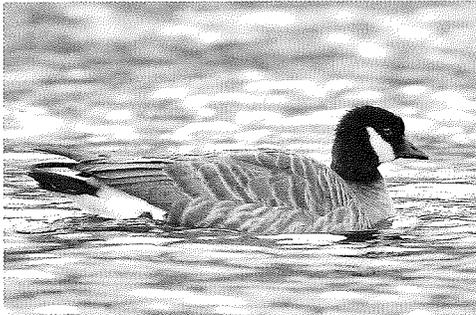
地名に触発されて改めてウズラを調べてみました。最近では野生のものは減多に見られませんが、かつては夏鳥として東日本で多数繁殖していたようです。江戸時代には飼い鳥として愛玩され、鳴き合わせまで行われたそうです。私は鳴き声を聴いたことがありませんが、高野伸二著『野鳥識別ハンドブック』には「グワックルルル(人によってはアジャパーと聞こえる)」とあります。とても美声とは思えないのですが、江戸時代の美声のウズラの血統は人がいじり過ぎて絶えたという解説が別の本にありました。可哀そうに…。

◆ 最後はコマドリ

稚内市にズバリ「こまどり」の地名があります。昭和47年、団地造成の際、周辺にコマドリを含む野鳥が多かったことから地名となりました。「こまどり団地」の他「こまどりスキー場」、「こまどり病院」、「こまどり広場」とこまどりだらけですが、開発された土地にコマドリは…来ないでしょうネ。町内会の旗にはコマドリが描かれているそうですが…。

…ということで、地名の鳥を探す旅に出てしまいました。本物の探鳥以上に暇と根気の要る旅になりそうですが、気長に列島を南下してみようと思います。追々レポートさせていただきますので、お付き合いください。

(写真提供：Y.E.)



●シジュウカラガン

英名 Cackling Goose

学名 *Branta hutchinsii*

分類 カモ目カモ科コクガン属

2014年1月17日(金)朝、長谷川孝さん(未入会の方)により、深谷市内の荒川左岸で写真撮影されました。同時に撮影された他の写真も含めて検討した結果、当委員会は331種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

本種は、最近では2005-06年の冬に写真撮影されたことがありましたが、足環が装着されていて、人工的環境で繁殖飼育・放鳥されたことが明らかであったため、県内野鳥リス

トには加えられませんでした(本誌2006年3月第263号参照)。しかし、今回の個体には足環など、人工繁殖・人為的放鳥を示すものや、飼育下からの逸出(いわゆる籠脱け)を疑わせるものも見あたらないことから、県内野鳥リストに追加すべきと判断したものです。

亜種については、前頭部がせり上がり頭頂が平らで台形状に見えること、嘴の大きさや形、前胸の色合い、首を伸ばすと根もとに見える白斑状の模様などから、前年生まれでまだ翌春を迎えていない若い亜種シジュウカラガン *B. h. leucopareia* ではないかと思われます。

なお本稿では、『日本鳥類目録改訂第7版』(日本鳥学会)により、シジュウカラガンをCanada Gooseから独立した別の種とする英名と学名を用いました。

<参考文献>

スプリンジャーほか(香川ほか 訳)、1990、『カリフォルニアに現われるカナダガンの亜種に付いての野外での特徴』

雁の里親友の会、2010、『大型外来亜種の問題 似ているけど、違うのです』雁の友 No.43:4-6

埼玉県内 年間鳥見ランキング参加のご案内

普及部長 長野誠治

(宿泊探鳥会も1ポイント)とします。

・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

3. ランキングの参加方法

・日本野鳥の会埼玉会員に限ります。良心の元に自己申告してください。

・過去2回以上それぞれの部門で優勝された方は別格扱いとして、表彰対象からはずさせていただきます。

・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号を記載して、電子メールまたは下記住所に郵送してください。

・締切 2015年2月15日(当日消印有効)

長野誠治

e-mail:

当会の鳥見ランキングも今回で第13回目を迎えます。昨年2014年(1月1日~12月31日)の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加してみましょう。詳細は以下の通りです。

1. 埼玉県内観察鳥種数ランキング

・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可。

・観察鳥種は当会の『埼玉県野鳥チェックリスト』に記載されているものとし、新種は、当会野鳥記録委員会が認定した時点で加算。

・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

・日本野鳥の会埼玉が主催する探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント



野鳥情報

越谷市中川右岸堤防 ◇10月26日夕方、20m位の至近距離でチョウゲンボウと遭遇。散歩中、チョウゲンボウが電波送信塔から目の電柱に飛び移った(鈴木 誠)。

越谷市中川右岸 ◇10月30日、武蔵野線鉄橋上空でミサゴ2羽、カラスの領域にミサゴが侵入したことに對して、カラス20羽前後が威嚇、追廻し、騒然となる。しばらくすると、ほとんどのカラスが去り、最後はカラスとミサゴが1対1。ミサゴは体をかかわすだけでカラスに反撃せず、上空を悠然と旋回し、10分間近く舞っていた(鈴木 誠)。

さいたま市岩槻区加倉 ◇11月5日午前7時頃、自宅周辺で聞きなれない声、何が鳴いているのだろうと近所の屋根を探す。なかなか見つからない。ふと自宅の屋根を見ると、アンテナの上で小鳥が囀っている。慌てて双眼鏡を持ってきて確認するとジョウビタキ♂だった。ジョウビタキの囀りを聞いたのは初めて。その後も自宅アンテナをソングポストにして囀っていたが、11月12日に囀りの途中でヒヨドリに追い払われてから、いい声は聞かれなくなった(藤原寛治)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月5日、ジョウビタキ♀1羽、カケス3羽、ウグイス地鳴き、ハヤブサ1羽。ここでは珍しくホオジロが3羽電線にとまっていた。11月12日、ツグミ1羽、ここで今季の初認。11月17日、シメ1羽、ここで今季の初認。ツグミ6羽、藪からウグイスの地鳴き、カケス5羽。枯れ枝にコゲラが穴をあけていた。11月24日、庭のバードバスにシメ♀が水を飲みきた。11月29日、ツグミ5羽が柿の実を美味そうに啄んでいた。ヒガラ1羽がメジロ5羽とシジュウカラ4羽とコゲラの混群に混じて一緒に行動していた。ケヤキの梢にシメが2羽ジッととまっていた。そのケヤキの中央付近をアカゲラ♂が何かを啄みながら枝移り。カケス5羽が屋敷林に次々に飛び込み、梅の小枝で2羽の♀のアオジが何か

を啄んでいた。アオジはここでの今季初認。12月4日、8羽のシジュウカラが1本のナンキンハゼの実を啄んでいた。12月9日、黒い塊が目を横切った。よく見たら尾羽が全くないヒヨドリだった。コゲラがカマキリの卵を啄んでいた(長嶋宏之)。

越谷市レイクタウン ◇11月6日、レイクタウン上空でミサゴ(鈴木 誠)。

越谷市東町3丁目 ◇11月6日、自宅前の電柱にチョウゲンボウが鳴きながら飛来、5分位電柱にとまっていた(鈴木 誠)。

蓮田市黒浜 ◇11月9日、Nさんからの連絡で観察に行くと、小雨の中タゲリ8羽が飛来していた。ここではときどき2〜3羽は観察されるが、群れは久しぶりだった。(田中幸男)。◇11月30日、黒浜沼でクイナ、ベニマシコ♀2羽、アリスイ、シメ、ジョウビタキ、アオサギ、カンムリカイツブリ1羽。久々にクイナが道に出てきて楽しませてくれた(本多己秀他3名)。

加須市北小浜 N36.1375 E139.6156 ◇11月13日、未耕耘の田圃でミヤマガラス100羽±にハシブトガラスが数羽混じって採餌。コクマルガラスはいなかった(長嶋宏之)。

さいたま市桜区・西区の鴨川 ◇11月16日、植田谷堰でマガモ♂5羽♀4羽、つるんと丸いゴム堰の縁にずり落ちもせず、並んで採餌。学校橋の下でカルガモ9羽、オオバン6羽。オオバンの甲高い鳴き声に、通行人が何事かと川を覗きこんでいた。下流にもオオバン1羽。11月17日、在家橋〜学校橋間のクズやカナムグラのはびこる土手でマガモ♂11羽♀6羽が採餌したり川へ降りたり。他にキセキレイ1羽、アイガモとカルガモのペア、コガモ。川岸の藪でスズメ、カシラダカ、シジュウカラ、コゲラなど。11月19日夕方、川を下ってきたヒドリガモ♂1羽と遡ってきたオナガガモ♂1羽とが、連れ立って上流へ。居残りガモのペアも今や美しく衣替え。他にカイツブリ、アオサギ4羽、ダイサギ、コサギ、カワセミなど(大塚純子)。

さいたま市見沼区春野 ◇11月15日午後2時30分頃、深作遊水地でカモを観察しに出か

けたが、オオバンしかいない。変だなと思
っていたら、樹上にオオタカがとまってい
た。カラスが周りを取り囲み、頻りに鳴い
ていた。オオタカのせいかな、小鳥の姿も少
なかった(菊川和男)。

蓮田市閩戸 ◇11月16日、元荒川でカルガモ
の群れを観察していたら、岸辺にオシドリ
♂、ヨシガモ♂が潜んでいるのを見つける。
ここでオシドリは時折観察するが、ヨシガ
モははじめての観察。11月23日、「元荒川
水辺ウォーク」でのバードウォッチングの
準備中、ハクチョウ7羽が飛来。少し遠い
ところへ着水。着水地近くで観察していた
Tさんからの連絡でオオハクチョウと同定。
間もなく飛び去り、ウォーク参加者に観察
してもらえず残念だった。市内での観察は
初めて(田中幸男)。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇11月17日、
ミコアイサ♀2羽、オシドリ♂1羽。ここ
で確認したのは初めて。他にオオタカ、ハ
ヤブサ、頭の白いチュウヒ、最近よく出現
するサンカノゴイ。11月24日午前10時頃、
カワアイサ♀1羽、30分で北西へ。ここで
見るのは初めて。他にカイツブリ30羽、カ
ンムリカイツブリ10羽、ハジロカイツブリ
3羽。驚きは、カワウ100羽位の集団で潜水
を繰り返し餌取り(野口 修)。

鴻巣市大芦 ◇11月22日正午近く、荒川に架
かる大芦橋の鴻巣側たもとの電柱・電線に
50羽ほどのミヤマガラスの群れ。今季初認。
丁寧にチェックしてコクマルガラス暗色型
も1羽見つける。よく見ると、ハシボソ・
ハシブトも何羽か混じっていた(榎本秀和)。

本庄市利根川 ◇11月24日、坂東大橋周辺で
コチョウゲンボウを撮っての帰り道、アオ
アシシギ4羽に出会う(森田文三郎)。

加須市加須はなさき公園周辺 ◇11月24日、
ジョウビタキ♂1羽、♀1羽。ホオジロ♀
3羽。亜種オオカワラヒワ6羽。カワセミ
♂1羽。モズ♂2羽。オオタカ若鳥1羽。
カンムリカイツブリ1羽。他にコガモ多数、
カルガモ多数、ヒドリガモ多数、バン、ツ
グミ、ウグイス、ヒバリなど(長嶋宏之)。

蓮田市上平野 N36. 0303° E139. 6135° ◇11

月28日、未耕耘の田圃でミヤマガラス200
羽士が採餌。成鳥対幼鳥比は8対2。コク
マルガラスはいなかった。他にモズ、ホオ
ジロ、亜種オオカワラヒワ、ヒバリ、ツグ
ミ、シメ、アオサギなど(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町小林 N36. 0635° E139. 5817°

◇11月28日、未耕耘の田圃でミヤマガラス
300羽士(成鳥対幼鳥比は9対1)が採餌。
内50羽士が近くの電線に飛びあがったり田
圃に降りたりしていた。電線にとまってい
るミヤマガラスの中にコクマルガラスの淡
色型2羽と暗色型7羽がいて、鳴き声がよ
く聞こえた。他にニュウナイスズメ50~100
羽。スズメ150羽士。亜種オオカワラヒワ
50羽士(長嶋宏之)。

嵐山町吉田 ◇12月4日、畑に真っ白な鳥=
下写真=。セグロセキレイと一緒に行動し、
飛ぶ時「ジジ」と鳴いたのでセグロセケ
レイの白化個体でしょう(千島康幸)。



さいたま市大宮区大宮公園 ◇12月9日午前
7時45分、通勤途中、自転車で公園を横切
っていると、「フイツ、フイツ」という声が
樹上から。ウソ♂若鳥でした! 他に、ビ
ンズイ10羽+とカシラダカ5羽+の群れが、
仲よく地面で餌採り。おかしな取り合わせ
の混群ですが、ここでは毎冬見られます(浅
見 徹)。

表紙の写真

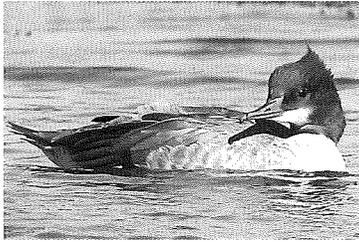
**ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属
コチョウゲンボウ**

今季も、コチョウゲンボウ親子4羽が、楽
しませてくれています。

森田文三郎(本庄市)



行事案内



カワアイサ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特記記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月1日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園
駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東
川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。

担当：手塚、赤堀、伊藤、大井、須崎、野口（修）、
藤田、若林

見どころ：越冬する鳥たちで調節池周辺が一
番華やぐ時季です。12月は鳥合わせ50種
でした。今注目の芝川第一調節池に是非来
てください。

ご注意：途中、トイレがありません。天候に
よってはコースを変更します。防寒対策は
しっかりと。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月1日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディ
カルセンター病院行きバス8:36発で「自然
観察公園前」下車。

担当：吉原（俊）、相原（修）、相原（友）、秋葉、
浅見（徹）、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、
内藤、永野、村上、山野、吉原（早）

見どころ：山野の鳥と水辺の鳥の両方を楽し
める公園です。上空を飛翔する猛禽類にも
会える可能性が大です。この時季、冬鳥達
も人なれするのか、とても近くで観察でき
ます。

戸田市・彩湖探鳥会（平日）

期日：2月5日（木）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパー
ク中央駐車場。

交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バ
ス乗り場8:30発下笹目行きで、「彩湖道満
グリーンパーク入口」下車。直前の交差点
まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林（み）、赤坂、赤堀、石塚、新部、
藤田

見どころ：2ヵ月連続の開催です。夏羽のカ
ンムリカイツブリ、先月に比べて、どれぐ
らい増えたでしょうか？ 珍しいカイツブ
リの仲間にも会いたいですね。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50
発に乗車。

担当：榎本（秀）、新井、鶴飼、倉崎、田島、
千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：昨年は大雪のため中止に。今回は
晴天を期待して、やわらかな陽光の射し込
む林の小径をのんびり散策、となればいい
なあ。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月8日（日）

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場

前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、
長谷部、水谷、持丸

見どころ：周辺の遊歩道で林の小鳥を探し、
堤防でカイツブリ類、カモ類を観察します。
名物となったオオタカのカラス狩りが見
られたらラッキー！

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(水・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。ま
たは午前9時20分、市民の森入口前(土呂
駅東口から徒歩約5分)。

担当：青木、赤坂、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、
浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、田中、藤
原、山田

見どころ：見沼たんぼの探鳥会では一番北側
の探鳥地です。今回は、数年前まで回って
いたコースを歩こうと思います。宅地化が
進みこのコースは最後になると思います。
是非ご参加ください。たんぼは、風を遮る
場所はありません。暖かい格好でお越し
ください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月14日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場か
ら、西上尾車庫行き(畔吉経由) 7:32発で
「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：野口(由)、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、
浅見(健)、浅見(徹)、大坂、柴田、立岩、
永野、山野

見どころ：冬の早朝、公園を冬鳥を探しなが
らゆっくり歩いて楽しみましょう。荒川の
土手から雪化粧した富士山がきれいに見
えることでしょう。防寒対策は十分に。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月14日(土)

集合：午前9時20分、森林公園南入口前

交通：東武東上線森林公園駅北口から立正大
学行きバス 9:02 発で「滑川中学校」下車。
ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過

してください。下車後、歩道橋を渡るのが
最短距離です。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、
65歳以上210円(証明書を持参ください)。

担当：中村(豊)、岡安、佐久間、鈴木(秀)、
藤掛、藤澤、松下

見どころ：雑木林を歩けば枝先にカラの混群、
ルリビタキ、シメなど。地上ではシロハラ、
ツグミ、ビンズイ、カシラダカ、アオジな
ど。山田大沼ではカモを楽しみます。梅や
福寿草も咲き出しています。お弁当を持参
して、アフターは花見ですね。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月14日(土)

集合：午前8時35分、岩槻駅前。または、午
前9時10分、文化公園国道16号側駐車場。
交通：東武アーバンパーク線大宮8:19発、ま
たは春日部8:17発で岩槻下車。集合後路線
バスで現地へ。

担当：長野、石川、内田、榎本(建)、菊川、
小林(善)、鈴木(誠)、鈴木(庸)、玉井、長
嶋、野村(弘)、藤原、吉安

見どころ：昨年2月にはルリビタキやカワセ
ミ、ベニマシコなど35種を確認しました。
ウソはまだいてくれるかな。春の渡りの準
備に忙しい冬鳥もじっくり観察してみま
しょう。初心者も大歓迎です。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後路線バスで現地へ(案内人は8
時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または
午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、石
塚、楠見、小菅、小林(み)、柴野、須崎、
新部、畠山、増田

見どころ：冬冬番。寒い季節ですが、その分
冬鳥と出会えるチャンスも増えてきます。
三室では、冬の普通種をよく見られます。
初心者の方は勿論、ベテランの方も是非お
越しください。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鵜飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：11月の探鳥会はカモ不在でガッカリでしたが、今月はきっと勢ぞろいしているでしょう。カワアイサが楽しみです。ベニマシコ、オオジュリンや猛禽たちも現れてくれると嬉しいですね。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます。足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、荒木、神場、佐久間、志村、杉原、鈴木(秀)、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、山口

見どころ：富士見橋の耐震工事は続いています。野鳥達への影響はどうでしょうか？「今シーズンは暖冬」との長期予報でしたが、昨年のような大雪は大丈夫でしょうか。柳瀬川で見られる冬鳥は勢ぞろいして、皆さんを迎えてくれます。柳瀬川の土手を散策しながら楽しい一時を過ごしましょう。風があると土手は寒いので防寒対策は十分をお願いします。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月21日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月22日（日）

集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越えた右側）。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス鳩山ニュータウン行き8:46、9:00発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：千島、岡安、志村、中村(豊)、藤掛、松下

見どころ：市民の森でカラ類、ビンズイ、谷津でベニマシコ、猛禽、岩殿観音ではルリビタキを期待しましょう。

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月22日（日）

集合：午前9時30分、JR信越線横川駅前。（一昨年より早い時間です）

交通：JR高崎線大宮7:07発→高崎8:29着、JR信越線高崎8:41発→横川9:14着。

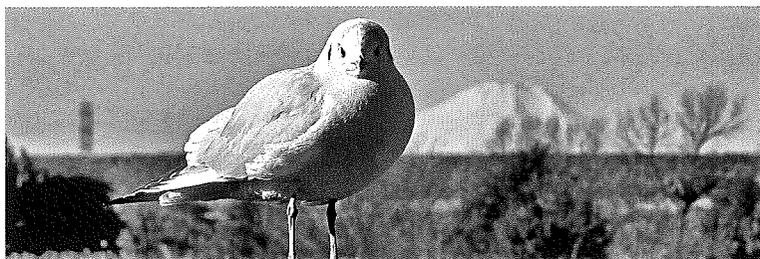
解散：午後3時30分ころ、横川駅前。

担当：入山、浅見、玉井、野口(修)、星、藤澤

見どころ：横川駅から小根山森林公園まで歩いて行きます。日頃の運動不足を解消するにはもってこいです。さて青・赤・黄色の信号機トリオが出揃ってくれるのでしょうか？

ご注意：昼食持参（森林公園まで釜飯の出前ができます。注文は集合時に伺います。）

健脚向き（探鳥コースは、往復で約7km。一部の区間で急坂の登り下りがあります）。積雪の可能性があるので、防寒と防水・滑らない靴でお越しく下さい。杖があれば歩くのに便利です。



ユリカモメ



行事報告

8月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：33名 天気：曇

カルガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イソシギ カワセミ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ コムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (25種) (番外：ドバト) 芝川右岸と見沼代用水西縁左岸を、心地よい風に吹かれてノンビリ探鳥。川の中州に降り立った2羽のイソシギに、秋の風情。ダイサギは飾り羽の名残があるものの、嘴はもう黄色。ムクドリの群れの中に、お目当てのコムクドリ♂♀を見つけ、大いに盛り上がり。季節の移ろいを感じる探鳥会だった。(浅見 徹)

8月24日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：42名 天気：晴

カワウ アオサギ ダイサギ ダイゼン シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ ミヤコドリ オオソリハシシギ キアシシギ ソリハシシギ ミユビシギ トウネン ウミネコ コアジサシ アジサシ ハシボソガラス ツバメ スズメ ハクセキレイ (20種) (番外：ドバト) 集合後、干潟に出て西堤防の方に。鳥が遠いので干潟に入って近づいて鳥を見るが、少ない。シロチドリ、メダイチドリ、ミユビシギ、トウネン、遠くにミヤコドリ。ここでようやくオオメダイチドリが近くで見られて良かった。(佐久間博文)

9月7日(日) 平成26年度リーダー研修会

参加：51名

埼玉県自然学習センターで開催。(公財)日本野鳥の会から普及室長の箱田敦只さん、日本野鳥の会栃木から副代表の手塚功さんが参加された。本年度は「初めての探鳥会参加者への対応について」をテーマに、田中幸男さん、小林みどりさん、入山博さんから事例紹介をしていただいた後、参加者は4つのグループに分かれて活発な話し合いを

した。午後からは、自己紹介、各部の報告、会の状況などのプログラムが進み、最後に新リーダーに藤掛代表から腕章の授与が行われた。新リーダーは、浅見健一、秋葉芳男、鈴木誠、鈴木庸子(敬称略)。(長野誠治)

9月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：33名 天気：快晴

コジュケイ キジ キジバト アオサギ トビ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ コサメビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ (21種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 秋の渡りにはちょっと早いと思っていたが、ゴルフ場に差し掛かった処でコサメビタキが現れた。ゴルフ場裏の林の入口ではイカルが数羽姿を見せて、盛り上げてくれた。出現鳥は少なかったが、チョウやトンボと秋の草花が助けてくれた。(新井 巖)

9月15日(月、祝) シギ・チドリ類調査

ボランティア：17名

浅見徹、石井智、石塚敬二郎、海老原教子、海老原美夫、大塚純子、岡部清美、金子康浩、佐久間博文、志村佐治、富田美邦、馬場友里恵、藤掛宮子、藤掛保司、藤田敏恵、船木数樹、松本敏子

9月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

浅見健一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、吉原早苗、吉原俊雄

9月21日(日) さいたま市 三室地区

参加：53名 天気：晴

ヨシガモ カルガモ コガモ キジバト ゴイサギ アオサギ ダイサギ バン サシバ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外：ドバト) 今回のテーマは「鳥を見て秋を探そう！」最初に見つけた<秋>はモズの高鳴き。次に見つけたのは芝川で休むコガモ。これは、秋というよりは冬かな？ カルガモの小群の中に黒っぽいカモが1

羽。最終的にヨシガモと識別した。エクリップスの状態から換羽が始まった段階なのだろう。それにしても難しい！ 快晴の秋空に現れた1羽のサンバ、身を翻して急降下した。渡りの途中、ここで栄養補給をしてゆくのだろう。渡り鳥の姿に秋を感じられる場所……三室はいつまでも、そういう場所であってほしい。(小林みどり)

9月21日(日) 坂戸市 高麗川

参加：26名 天気：晴

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ イソシギ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ウグイス メジロ ムクドリ ノビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ イカル(30種)(番外：ガビチョウ、ドバト) 真っ赤な彼岸花を楽しみながらの探鳥会。カケス13羽の群れやイカルなどを観察できた。かわいいカイツブリの幼鳥やノビタキも。鳥合わせ時に上空を4羽のノスリが舞い、オオタカも飛翔。鳥合わせがなかなか進まない豪華な猛禽ショーであった。(山口芳邦)

9月23日(火、祝) 松伏町 松伏記念公園

参加：41名 天気：晴



カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ オオバン トビ オオタカ カワセミ コゲラ サンコウチョウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ センダイムシクイ メジロ セッカ ノビタキ エゾビタキ コサメビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒ

ワ(29種)(番外：ドバト) 調整池でコガモのエクリップスをじっくり観察。農耕地に向かう池の側道で林の中にシジュウカラとコゲラの混群を発見。見ていると「サンコウチョウがいる」との声。幼鳥と判定、まだアイリングがブルーになっていなかった(写真：植平徹)。農耕地ではノビタキのくりくりお目々に歓声が上がった。(田邊八州雄)

9月28日(日) 狭山市 入間川

参加：31名 天気：快晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ コサギ バン ヒメアマツバメ トビ カワセミ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ノビタキ エゾビタキ コサメビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ(27種)(番外：ドバト) 毎年9月は、渡り途中の鳥に会えるのを、ほんの少し期待している。今年は、久々の大当たり。ノビタキ、コサメビタキ、エゾビタキのヒタキ科3種の大サービス。入間川にはは出すぎ。これから数年分のツキを使ってしまったかな。(長谷部謙二)

9月28日(日) タカの渡り調査

ボランティア：33名

秋葉芳男、阿部、新井巖、伊藤幸子、今村富士子、鵜飼喜雄、大川清久、岡安裕三、岡安玲子、小貫とみ子、小貫正徳、小林大介、小林典子、佐久間博文、桜井正純、佐藤、佐野、篠葉、柴田和見、杉原、高橋洋一、田島利夫、立岩恒久、千島康幸、富田、野口、長谷部登美子、松井昭吾、松野勉、村上政直、吉原早苗、吉原俊雄、渡辺

10月5日(日) 北本市 石戸宿

参加：10名 天気：雨

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ゴイサギ ダイサギ コゲラ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ(12種) 台風18号の影響で雨。参加者の1名は一般参加者。せっかくなので実施を決定。最初は、駐車場の奥のエゴノキに実を取りに来るヤマガラを観察。次は、正門の橋の上からコガモを観察。傘に落ちる雨粒の音で、鳥の音が聞こえても、方向が分からない。高尾の池では多数のゴイサギの幼鳥。足元がびしょ濡れになったが無事終了。(吉原俊雄)



●武蔵丘陵森林公園第1回地域懇談会

12月12日(金)同公園内で開催され、環境に関する関係団体として当会など5団体6名、文化・福祉・子育て・地域近隣における関係機関など13機関22名、公園管理センター6名、計34名出席。当会からは、藤掛保司代表と、小林みどり副代表が参加しました。「ミヤコタナゴを森林公園で復活させるプロジェクト」などについて話し合い、引き続き開催される予定です。

●さいたま市緑区環境講演会を後援

2月8日(日)14:00~16:00、プラザイースト(緑区中尾、048-875-9933)多目的ホールで開催される講演会「見沼たんぼの生き物たちの近年の変化」(農学博士栗瀬司さん埼玉大学非常勤講師)を、当会は後援します。定員200人。入場無料。問い合わせ:048-712-1131。

●会員の普及活動

11月29日(土)、越生駅から越辺川ルートで開催された新ハイキング主催行事「鳥を観る・知る12」で、小林みどり・工藤洋三・藤田敏恵・星進が指導。参加者約20名。雨のため早めに切り上げました。

12月19日(金)、上尾自然学習館で、自然学習協力員の研修を、小林みどりが指導。午前中は丸山公園で鳥の行動に注目する観察を実地指導。午後は、実地研修のまとめ、質疑応答など。

12月20日(土)坂戸市環境学館いずみから高麗川沿いに入西(につさい)こはるが池に至るコースで開催された坂戸市環境

学館いずみ主催「バードウォッチングウォーキング」講座で、増尾隆・坂口稔が指導。出発する前の室内で参加者の希望も聞いて「冬鳥のツグミを観よう」「カラスの識別」「カワセミを観よう」をテーマにして歩き、3テーマとも達成。参加者10名。22種観察。

●会員数は

1月5日現在1,778人。

活動と予定

●12月の活動

12月13日(土)『しらこぼと』1月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之)。

12月21日(日)役員会(司会:相原修一、さいたま市緑区環境講演会後援・その他)。

12月22日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』1月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●2月の予定

2月7日(土)普及部・編集部会。

2月14日(土)3月号校正(午後4時から)。

2月15日(日)役員会(午後4時から)。

2月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

今年の鳥見計画を立ててみた。なかなか面白い。海外も、と欲張っていたら、編集作業が後回しになってしまった。(山部)

この冬、マイフィールド彩湖で、日本のカイツブリ類5種の冬羽を全部観察できた。やっぱり地元を大切にしなければと言いながら、私も遠出を予定している。(海)

しらこぼと 2015年2月号(第370号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamazekuzu@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社